

3) 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数 【2016年度】

2016年度<2016年4月1日～2017年3月31日退院患者>

部位	初発					再発	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明		
胃癌	-	10	-	19	-	-	7
大腸癌	-	22	33	24	-	30	7
乳癌	-	-	10	-	-	-	7
肺癌	-	-	-	-	-	10	7
肝癌	-	-	-	-	-	-	7

<集計方法と定義>

- ◆対象患者は一般病棟に1回以上入院した、医科レセプトのみの患者です。
- ◆入院後24時間以内に死亡した患者さんは対象外です。
- ◆症例数が10未満の数値の場合は、－(ハイフン)で表示しています。
- ◆一連の治療期間に入退院を繰り返すなどを行った場合は、同一患者に入退院を繰り返した回数分をかけた延患者とします。
- ◆病期分類は、UICC TNM分類の病期(Stage)に基づいたものです。
- ◆Stageが「0」のものは対象外としています。

<解説>

5大癌といわれる「胃癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝癌」の初発病期分類と再発数を表に示したものです。

【胃癌】胃癌の主な治療法には内視鏡的治療、腹腔鏡補助下手術、開腹手術、化学療法(抗癌剤)、放射線療法などがありますが、その病期に応じた治療を選択することが大切です。当院では日本胃癌学会の胃癌治療ガイドラインにのっとり、早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術を行っています。比較的小さな胃癌でリンパ節転移がないか軽度の方、つまり病期IA(がんが粘膜内あるいは粘膜下組織にとどまり、リンパ節転移がない)で内視鏡的治療の対象にならない方や、病期IB(癌が粘膜内あるいは粘膜下組織にとどまり、すぐ近くだけのリンパ節転移がある、あるいは癌が固有筋層にとどまり、リンパ節転移がない)の方が対象になります。

【大腸癌】当院における悪性腫瘍の中で最も多いのが大腸癌です。内視鏡的治療の適応にならない症例に対し、腫瘍が特に大きい場合や穿孔がある場合などを除き、腹腔鏡補助下手術の適応としています。また、2017年度より、入院患者さんの便潜血反応検査を推進し、大腸癌の早期発見を目指しています。

【乳癌】各Stageが10症例未満のため「－」表示でありますが、外科的治療や抗癌剤治療、ホルモン療法などを患者さんの状態に合わせ選択、実施しています。

【肺癌】【肝癌】各Stageが10症例未満のため「－」表示としています。患者さんがご高齢などで積極的な治療を望まない場合もありますが、治療が必要な場合は、治療が可能な施設へご紹介させていただきます。

患者さんに抗癌剤治療が必要になった場合には、初回導入時は入院、以降は外来化学療法室で、安心して実施することができます。